

津市総合教育会議懇談会の結果について

資料

1 懇談会の開催の趣旨

総合教育会議懇談会は、市長と教育委員会が教育行政のあるべき姿を議論するにあたり、現場の声に耳を傾け、そこで把握したことを次年度以降の取組に活かすことを目的として開催しています。

懇談会は、平成28年度から実施しており、今年度は、津市PTA連合会本部役員、現場教職員の代表、津市小中学校長会役員、津市立幼稚園長会役員の皆様との懇談の場を設けました。

今年度は、「ポストコロナ期の教育について」をテーマとし、依然として新型コロナウイルス感染症の勢いが止まらない状況の中、長引くコロナ禍における教育の現状について、お気付きのことやお考えのこと、また、今後終息を迎えた際に、これまでの取組をどう展開させていけばよいか等について、御意見等をお聴きしました。

2 開催日時

令和3年8月20日（金）	19：00～20：00	津市PTA連合会本部役員
令和3年8月25日（水）	14：00～15：00	三重県教職員組合津支部役員
	15：15～16：15	津市小中学校長会役員
	16：30～17：30	津市立幼稚園長会役員

3 主な意見の概要

	津市PTA連合会本部役員	現場教職員の代表	津市小中学校長会役員	津市立幼稚園長会役員
GIGAスクール構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の理解がまだまだ進んでいないので、学校から積極的に情報を提供してほしい。 子どもたちにきちんと将来のビジョンを伝えたいので、進めてほしい。必要性が理解されないままでは効果が半減する。 保護者の中には「子どもは紙と鉛筆で勉強すべき」という考えの人もいて、デジタル依存等を心配する声もある。 子どもたちの心の豊かさを育むことと両立しながら進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中、タブレットに不具合が生じる場合があり、困っている。また、2学期に家庭へタブレットを持ち帰った際、うまくいくかが心配である。 1学期は子どもたちにzoomの使い方を教えるなど、下地を作った。2学期からはそれを実践する新たな段階になるため、今、準備しているところだが、不安は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ教員間の格差があり、オンラインで家庭にいる子どもたちときちんとつながることができるのか不安である。 教員用のタブレットや電源保管庫の配置箇所等、あと、もう少しだけ予算を上乗せしてもらえると、格段に満足度が上がるように思う。 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校で子どもたちがどのように過ごしているのかわかるように動画配信等をしてほしい。学校によってホームページの更新状況も異なり、学校間で差が出ている。 感染対策に関し、保護者間で温度差がある。学校は遠慮せず何があっても感染を防ぐという強いメッセージを出してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 休業しないことや給食を実施することへの不安の声がある一方で、給食がなければ仕事に行けないという保護者の声もある。保護者には様々な事情や考え方があり、全てに応えることは難しいが、できる限り寄り添って進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観ができず、タブレットを使った授業や給食の様子等がわからないので、保護者は不安を感じていると思う。学級通信等はもちろんのこと、ホームページで動画を掲載する等、工夫していきたい。 緊急事態宣言が出るのが決まり、既に学校には様々な問い合わせが来ている。今後の反響次第で対応を再検討することになるかもしれない。 家族が感染し、周囲にも打ち明けられず、つらい思いをしている子どももいる。学校にはそういった家庭へ支援をする役割もあると思うが、家庭訪問もしづらい状況にある。 保護者の中には感染予防にあまり意識がなく、「濃厚接触者になっても黙っていればわからないだろう」というような感覚の人もいる。登校を控えてほしいケースをもっとわかりやすく示すべきではないかと思う。 	
子どもへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 罹患した子どもへの心のケアをしっかりしてほしい。 感染予防の観点から少人数学級編制を推進してほしい。特に中学校は生徒数が多いので、優先して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国につながる子どもや特別な支援が必要な子どもについて、一人ひとりの事情が違うので、時間割や教材等について、各家庭と話し合いをしながら考えていかなければならない。 2学期が始まるにあたり、特別な支援を必要とする子どもについて、午後からのタブレットを使った学習をどうしていくか等、今必死で準備している。 新学期、子どもたちは久しぶりに会う友達と夏休みの話をしたいはずだが、我慢させることになってしまう。教員としてもがんばりどころだと思っている。 部活動ができないことが残念。2学期以降の行事をどうするかも検討していかなければならない。 分散登校のときに指導してみて、半分の人数になると本当に目が届きやすいということを実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンのある教室を、もう少し増やしてもらえると、少人数で授業をする時に大変助かる。また、体育館の暑さが心配なので、断熱などの暑さ対策を考えてもらいたい。 子どものワクチン接種が、実質始まっていない中、2学期が始まることに不安を感じている。なるべく早く接種できるようにお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期は子ども同士の触れ合いが大切なので、遊ぶ時は密になるし、教員とのスキンシップも避けられないと思ってきたが、2学期からはもう一歩進んで対策をしなければならぬと感じている。 幼稚園では、子どもとの距離を近づけ、手を添えて指導しながら、1人1人との関係を作っていくことを大切にしているので、密を避けながらの保育は大変厳しい。 マスクで表情があまり見えないので、子どもたちに伝わりにくいことがある。工夫はしているが、今すぐにわからなくても、後で影響が出ないとも限らないので、心配している。 外国籍で日本語が話せず、集団で過ごすのも初めての幼児がおり、マスクで顔が見えない中、言葉も通じないことで、強い不安を感じさせてしまった。自動翻訳機や通訳の力を借りつつ家庭訪問も併せて行う等して対応していきたい。
コミュニティスクール	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティスクールに関し、保護者の理解が進んでいない。ポストコロナ期には地域とうまく関わられるよう準備しておくべき。 			
教職員の負担		<ul style="list-style-type: none"> 消毒作業など教員の業務量が増えたが、スクール・サポート・スタッフを配置してもらい、大変助かっている。引き続き人的支援をお願いしたい。 特に音楽や家庭科、理科の実験等は、これまで通りの指導ができないため、制限のある中、教材研究をしなければならず、負担が大きい。 クラスに感染者が出たら、その子どもへのケアをしながら、クラス全体の指導もしていかなければならない。 		<ul style="list-style-type: none"> 指導方法等、これまで通りいかないこともあり、新しい方法を考えなければならぬことで、教員の心理的負担は増えているように思う。
その他		<ul style="list-style-type: none"> 今後、エレベーターなど校舎のバリアフリー化に取り組んでいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験が浅い管理職は、コロナ禍での学校運営しか知らない。例えば、地域とつながる機会がコロナで奪われている中、地域との関わりも含めた本来の学校運営を知らない管理職が増えていくことに危機感を感じている。 昨年は修学旅行の日程変更等に伴う追加費用について支援をいただいた。今年も引き続き支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食実施の必要性、重要性を感じており、対象園をさらに拡大してほしい。 公立幼稚園の教諭は、一人で担任を持るところにやりがいがあり、採用されてからの研修がしっかりしているところが良い。 公立幼稚園には全ての子どもを受け入れる役割があると思うが、外国につながる子どもや特別な支援が必要な子どもが年々増加し、対応が難しくなっている。 公立幼稚園では、子どもが主体的にじっくり遊ぶ時間が確保できる。これからも質の高い幼児教育を行っていきたい。